



アイヌ文化のことをもっともっと話したい！
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソンコ(=お便り)形式のエッセイです。



シキナ(ガマ)
本田優子(札幌大学教授)



夏

から秋にかけて湿地で見かける、フランクフル
トのような穂がついてる植物、なんでしょう？

そう、ガマです。ガマはアイヌ語ではシキナ。シシ本当
の、キナ草という意味になります。ガマは暮らしの
必需品であるゴザの材料なので、そういう立派な名前
になったのでしょうか。ゴザの材料になる草はいくつ

かありますが、ガマの葉は内部

がスポンジ状のとても温かい構

造になっているので、最も適し

ているのだと言われます。

昔、二風谷で暮らしていた

頃、萱野茂先生とガマ刈りに

行きました。ガマの葉は水中

の白い部分が多いほど、変色

しないきれいなゴザになると

のことで、長い柄の先に鎌を結

びつけ、胴長で腰まで沼に浸

かって刈っていました。ところ

がその時、近くに小さくてかわ

いガマの穂があるのを見つけた私は、「家に飾ろ

う」と思って伐ったのです。すると、滅多に怒ること

ない萱野先生から「遊びで採るんじゃない！」と大声

で叱られました。たしかに穂の中は種。資源保持

を考えるとむやみに採ったりしてはいけないのだと

反省し、忘れられない思い出になりました。



イラスト／山丸ケニ

ゴザには、普段の敷物として使う無地のものと、赤
と黒の美しい模様の入った花ゴザがあります。その
模様が大好きな私は、二風谷に移り住んでしばらく
の頃、尊敬するフチ(おばあさん)に小さな花ゴザの
制作をお願いしたことがありました。「なんに使う
の？」と訊かれたので「玄関マット」と答えると、びっ

くりした表情で「模様は足で

踏んだらダメなんだよ」と言

われました。たしかに花ゴザ

は儀式の際に壁を飾ったり、ロ

ルンソ(上座)の供物や道具の

下に敷かれるもので、人がその

上に座ったりはしないのです。

ましてや足で踏むための玄関

マットなんて…。恥ずかしくて

真っ赤になりました。でも、で

きあがってきたゴザには、両端

に赤と黒の線が入っていて

「端っこをわざわざ踏むことは

ないでしょ」って。優しいフチの思い出です。

模様部分は草木染めした木の皮の繊維を編み込

むのですが、近年は赤と黒の木綿布を使うことも多

いようです。前者は落ち着いた色合いです。後者

は遠目にもくっきりと模様が浮き上がり、どちらも

ステキです。



次回のテーマは「チビヤク(オオジシギ)」
村木美幸(アイヌ民族文化財団副理事長)が
担当します。



ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トゥレンボン」



イランカラテ
「こんにちほ」からはじめよう。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団副理事長。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■山丸ケニ(やままるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。